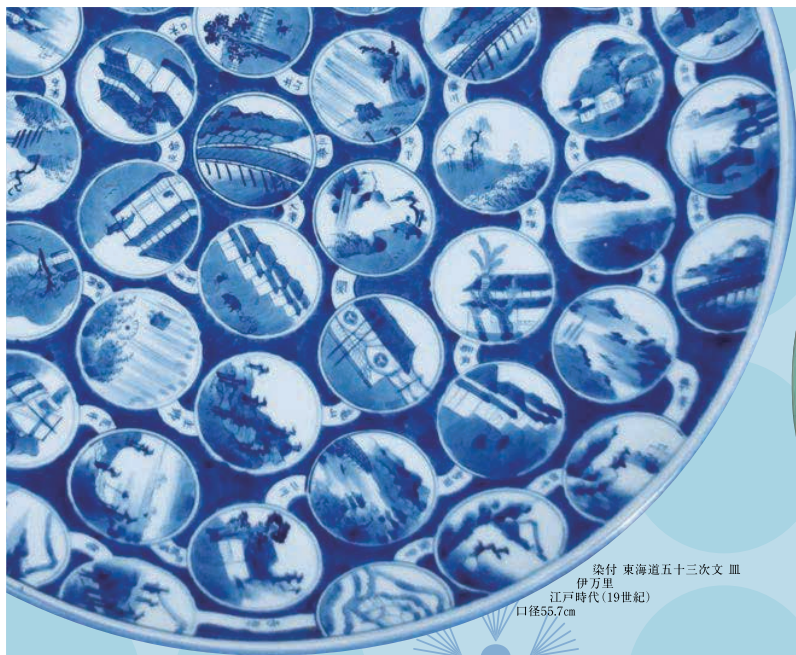


# プレスリリース



染付 東海道五十三次文皿  
伊万里  
江戸時代(19世紀)  
口径56.7cm

Colors of Ko-Imari especially Blue and white,  
Blue glaze and Celadon glaze



青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿  
伊万里  
江戸時代(17世紀後半)  
口径28.0cm

# 古伊万里の「あを」

— 染付・瑠璃・青磁 —



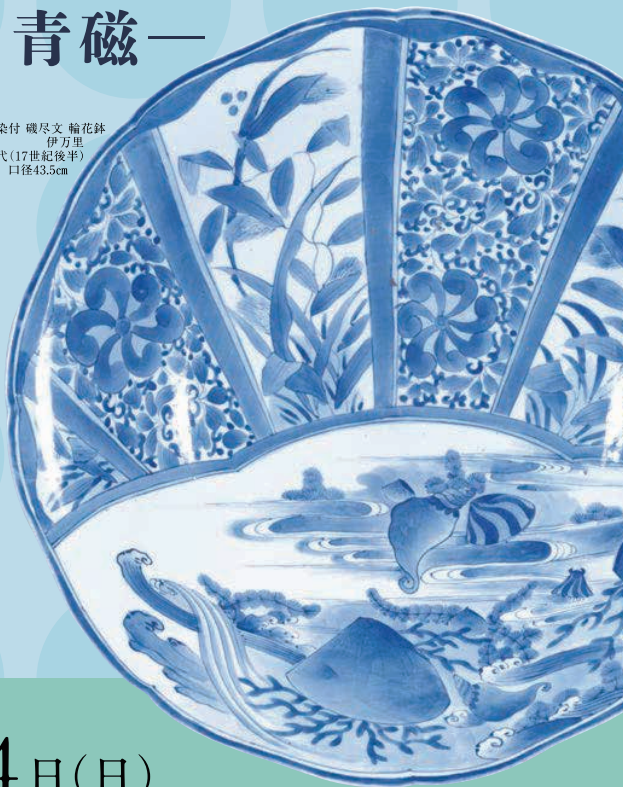
瑠璃釉 瓢形瓶  
伊万里  
江戸時代(17世紀中期)  
高31.5cm



瑠璃釉染付 網干文 瓶  
伊万里  
江戸時代(17世紀中期)  
高27.0cm



青磁 瓢形瓶  
伊万里  
江戸時代(18世紀)  
高25.2cm



染付 磁尽文 輪花鉢  
伊万里  
江戸時代(17世紀後半)  
口径43.5cm

会期 | 2023年7月7日(金) - 9月24日(日)

「あを」とは主に青、緑、藍など広い範囲の色を指す古語。江戸時代に作られた伊万里焼の「あを」の装飾には、青緑色の青磁釉、藍色の瑠璃釉などの色釉、青や緑の上絵具、白い素地に青色の文様を施す染付の呉須絵具などが挙げられます。特に、染付の青色の技法は、草創期にあたる17世紀前期から技術を研鑽し続け、江戸時代が終わるまでの約250年を通じて豊かな表現がみられます。絵具の精製技術の向上や当時の需要者層の流行に則った色調の変化が見られることから、染付の青色はその時代を映す鏡ともいえるでしょう。今展では染付の青色を中心に瑠璃釉の藍や青磁釉の青緑、上絵具の青や緑といった「あを」の変遷をご紹介します。時の流行や技術の発達とともに変化する古伊万里の「あを」をご堪能ください。

## 展覧会紹介文

どうぞご活用ください。

### ■ 27words

染付を中心に瑠璃や青磁など古伊万里の装飾の変遷を紹介。

### ■ 100words

「あを」とは主に青、緑、藍など広い範囲の色を指す古語。今展では古伊万里の「あを」の装飾の中でも染付、瑠璃、青磁、色絵の青や緑に注目。約 80 点の作品と共に時の流行や技術の発展による色彩の変遷を紹介する。

## 見どころ

### 古伊万里の「あを」作品、約 80 点出展

古伊万里とは、江戸時代に佐賀鍋島藩領の有田を中心とした地域で焼造された伊万里焼を言います。今展では、染付の青色を中心に瑠璃釉の藍や青磁釉の青緑、上絵具の青や緑といった「あを」の装飾をもつ古伊万里を出展いたします。



#### 染付（そめつけ）

酸化コバルトを発色の主成分とする呉須（ごす）絵具で素地に絵付けをしたのち、釉薬を掛けて高温焼成することで青色を呈する技法。伊万里焼の焼成が始まる 1610 年代から江戸時代が終わるまでの約 250 年を通じて豊かな表現がみられます。

①染付 磯尽文 輪花鉢  
伊万里  
江戸時代（17 世紀後半）  
口径 43.5cm

17 世紀後半は製作技術の最盛期。本作も大作ながらやや淡い発色の染付による繊細な描線と濃淡の巧みなグラデーションが際立つ。

#### 瑠璃釉（るりゆう）

伊万里焼では素地の白色を生かす透明釉が基本ですが、これに呈色剤となる金属化合物を加えることで、様々な釉色をあらわします。

透明釉に呉須を混ぜ込むことで藍色を呈するのが瑠璃釉です。染付と同じく酸化コバルトを発色の主成分としています。呉須の含有量で濃淡に変化が生じるのが特徴です。



#### ②瑠璃釉 瓢形瓶

伊万里  
江戸時代（17 世紀中期）  
高 31.5cm

#### 青磁釉（せいじゆう）

透明釉に 1～2% の酸化第二鉄を混ぜ込んだ釉薬。還元炎焼成をすることで青緑色を呈します。釉中の鉄分の量や焼成の巧拙、釉薬の厚さ、素地や釉薬に含まれる夾雑物などの影響が色調に出やすく、美しく焼き上げるには職人の熟達した技と勘が必要であったとみえます。



#### ③青磁 瓢形瓶

伊万里  
江戸時代（18 世紀）  
高 25.2cm



#### 上絵具（うわえのぐ）の「あを」

焼成した釉面の上に絵付けを施し、低温焼成する色絵（いろえ）に使用する上絵具。赤・青・緑・黄・紫・金銀などカラフルな装飾を施すことができます。青や緑の上絵具はガラス質の多い艶のある質感になるのが特徴です。

#### 色絵 布袋文 皿

伊万里（古九谷様式） 江戸時代（17 世紀中期） 口径 34.5cm

## 古伊万里の「あを」の共演

### 瑠璃釉×染付ー酸化コバルトによる「あを」ー

呉須絵具で絵付けを施す染付と透明釉に呉須を混ぜ込む瑠璃釉は、いずれも酸化コバルトを主な呈色剤とします。「瑠璃釉染付」は呉須絵具で文様を描き、そこに瑠璃釉を組み合わせた作品のこと。瑠璃釉の掛かった染付の発色は、透明釉を掛けた場合よりも黒に近くなるのが特徴。趣深い落ち着いた作風は、青色同士の掛け合わせならではのと言えるでしょう。



#### ④瑠璃釉染付 網干文 瓶

伊万里  
江戸時代（17世紀中期）  
高 27.0cm

### 青磁釉×染付ーふたつの「あを」ー

青磁釉と染付を併用した作品を「青磁染付」と呼んでいます。ただし、一口にそう言ってもその工程は様々。絵付け部分を白地に残して染付文様をあらわしたものや、青磁地に染付を施すものなど豊かなヴァリエーションがみられます。いずれも青磁釉の青緑と染付の青の共演が清々しい色彩をあらわしています。



#### ⑤青磁染付 樹鳥文 葉形三足皿

伊万里  
江戸時代（17世紀後半）  
口径 28.0cm

## 古伊万里の「あを」から覗く江戸のトレンド

需要者の求めに応じて作られる伊万里焼には、当世の流行が反映されています。例えば江戸時代後期に当たる19世紀には、西欧から合成顔料の「ベルリンブルー」がもたらされます。名だたる浮世絵師たちが愛用した濃い青色の顔料を用いた浮世絵は、伊万里焼の呉須絵具の発色にも影響を及ぼしました。濃厚な青をあらわす染付からは、当時の流行が垣間見えます。



#### ⑥染付 東海道五十三次文 皿

伊万里  
江戸時代（19世紀）  
口径 55.7cm

歌川広重「東海道五十三次」の意匠を濃厚な青色で双六（すごろく）状にあらわした大皿。当時人気を博した「東海道五十三次」と「双六」、「濃い青色」という、まさに当世流行尽くしな作例。

※画像①～⑥および展覧会ポスターの写真データ等をご用意しております。ご購入の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。また、ご取材も随時承っております。お気軽にお問い合わせくださいませ。

## 展覧会情報

- 名称 : 古伊万里の「あを」—染付・瑠璃・青磁—  
会期 : 2023年7月7日(金)～9月24日(日)  
会場 : 戸栗美術館  
所在地 : 東京都渋谷区松濤 1-11-3  
開館時間 : 10:00～17:00(入館受付は16:30まで)  
※金曜・土曜は10:00～20:00(入館受付は19:30まで)  
休館日 : 月曜・火曜  
※7月17日(月・祝)、9月18日(月・祝)は開館。  
入館料 : 一般1,200円 / 高大生500円  
※中学生以下は入館料無料。  
交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分  
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分  
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。  
同時開催 : 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第3展示室)  
『望月優 真希 二人展 伝統技術の可能性』(やきもの展示室)

## 会期中の催し物

- 展示解説 『古伊万里の「あを」—染付・瑠璃・青磁—』の見どころ**  
2階展示室にて、主な作品の見どころをご紹介します。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください(予約不要)。  
■7月17日(月・祝)・9月9日(土) 各日14:00～(約45分)  
■参加費無料
- 展示解説 古伊万里入門**  
古伊万里鑑賞をより楽しむための入門解説です。陶片に触れていただきながら、陶器と磁器の違いから、江戸時代の伊万里焼の作り方や様式変遷といった伊万里焼の基礎を解説いたします。当日、ご参加の方に特製資料を贈呈いたします。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください(予約不要)。  
■8月12日(土) 14:00～(約45分)  
■参加費無料  
※2階ロビー『伊万里焼の作り方』と第3展示室『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』での解説です。当日『古伊万里の「あを」—染付・瑠璃・青磁—』の解説はございません。
- ラウンジ&ギャラリートーク 『Japan Blue』と古伊万里の青**  
前半は1階ラウンジにて「Japan Blue」に繋がる幕末の青色の流行と伊万里焼の染付の青との関連を概説し、後半は2階展示室にて展示解説を行います。  
■7月24日(月) 14:00～(約120分)  
■先着30名様  
■要事前予約  
■参加費 一般1,500円(税込)(入館券を別途お求めください)  
年間パスポート会員1,200円(税込)

## 次回展予告

### 『伊万里・鍋島の凹凸文様』

2023年10月6日(金)～12月21日(木)

線彫りや型による浮き文様、透かし彫りなど繊細な凹凸文様の伊万里焼や鍋島焼の作品約80点を展示いたします。



青磁瑠璃銹釉 竹虎文 三足皿  
伊万里  
江戸時代(17世紀中期)  
口径23.8cm

## お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>



戸栗美術館公式 HP